

学校概要

創立 62 周年	学校長 大橋 恵子	副校長 世取山 実義	学期 2 学期制	児童・生徒数 303 人
学級数 一般級: 12 個別支援級: 2		主な関係校: 岡野中学校・宮田中学校		

学校教育目標

- 【自立】 健やかな心身や、善悪をわきまえ がまん強く行動する気持ちを育てます。
- 【共生】 自分を見つめ、他を思いやり、みんなのために役に立とうとする心を育てます。
- 【学び合い】 学び合いの楽しさや大切さを理解し、学び続ける力や 伝え合う力を育てます。

学校の特徴

- 学校内に畑や田んぼなどの栽培活動ができる環境が整っており、地域の方々の支援を得ながらそれぞれの学年にあった栽培活動ができる。
- 地域の方の支援により、全校で剣道・茶道の学習に取り組み、基本的な礼儀作法を学んだり、高学年では地域に出て職場体験学習を行ったりしている。
- たてわり活動が充実しており、学年間の交流が盛んで異学年同士の仲が良い。
- 敷地に崖地が多く、その特徴を生かした学習環境を整えているが、児童の安全管理が難しいところもある。

学校経営中期取組目標

- 子ども一人一人を大切に、まちや学校の特徴を生かした、活力と魅力にあふれる学校づくりを目指します。
- ・自分の思いや考え、相手のよさを積極的に伝え合い、豊かな人間関係を築くことができる子どもを育てます。
- ・学び合う楽しさを実感できる授業づくりを推進し、進んで表現し主体的に学び続けることができる子どもを育てます。
- ・基本的な生活習慣を身に付け、心身ともに健康な子どもを育てます。
- ・保護者・地域・学校の連携をより密にして、子どもが地域や人との「つながり」を感じとり、まちを大切に育みます。

小中一貫教育の取組

岡野中	ブロック	岡野中学校・平沼小学校・浅間台小学校
9年間で育てる子ども像	○人にやさしく、人の役に立つ、主体的に学ぶ子どもの育成 ○すすんであいさつができる子どもの育成 ○地域とかかわりながら、地域を大切にする子どもの育成	
自校の具体的取組	・道徳と「路耕」による心の教育の実践 ・道徳の授業と生活を結びつける重点研究 ・あいさつ運動 ・地域行事への児童の参加 ・高学年のしごと体験	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	基礎・基本の確かな定着を図るとともに、学び合いを通して、表現力やコミュニケーション能力の向上を図る。主体的に問題解決していく力を育てる。	①道徳の目標を中心に校内研究を進めていく。A、B、C、Dの内容項目に沿って目標を決める。②表現力、コミュニケーション能力の向上についてはどの教科、領域でも継続していく。③気持ちを表す言葉や行動を考える際、国語の語彙表を活用するようにする。
豊かな心	自他を大切に育む気持ちを育てるとともに、多くの方に支えられている実感を感じながら感謝の気持ちを育てる。	①たてわり活動では学年ごとのめあてを設定することで意識化していく。②他学年と交流できる時間や行事を年間学習計画に記入し、効果的に交流の時間を設ける。③年度はじめに道徳の学習で「あいさつ」の内容について重点的に指導する。④道徳教育推進校としての研究成果を日々の実践に反映させ、評価改善しつつ効果が生まれるように努める。
健やかな体	基本的な生活習慣に関する活動に保護者と協力して取り組む。自分の取組を振り返り変容を実感しながら、健やかな体をつくっていくとする態度を育てる。	①全学年のそろう懇談会(9月)に、保護者に資料(学状)を提示し、啓発する。②健康ファイルを各自持たせる。6年間活用する。歯の健康について考え、正しい歯みがきの習慣を身につけ自分の変容が分かるように、記録を残しておく。③月の具体内容を示し、最終回に記録をとる。マラソン活動も同じく記録を残す。
教育課程学習指導	各学年ごとに「学習のスタンダード」をつくり、子どもが安心して学習できるようにする。また、栽培活動を各学年の教育課程に位置づけて取り組む。	①辞書の活用方法や保管方法については、年度初めに学級で確認する。②「算数マイノートをつくらう」のページをスキャンし、データ化しておく。年度初めに前学年の内容を把握し、どの学年のノートも見て活用できるようにする。③「大地の会」と連携しながら学校全体としての栽培活動を考え、学校全体として栽培活動を利用することを吟味していく。
児童生徒指導	「浅間台スタンダード」を全教職員が共有して子どもの指導にあたる。子どもが安心して過ごせるように、子ども同士のかかわり、教師と子どものかかわりを大切に育てる。	①②「浅間台スタンダード」と月別生活目標(4月、10月、3月)とを関連づけて指導する。「浅間台スタンダード」のよさが子どもに伝わるように指導する。③いじめ防止アンケートを年2回実施して実態把握に努めると共に、早期発見→対応を組織的に行えるようにする。④アンケート実施後に「いじめ防止対策委員会」を設定する。
地域連携	学校の情報を積極的に発信し、「学校支援地域コーディネーター」との連携を図りながら、保護者・地域の支援を教育活動に生かす。	①学年だりの発行に合わせて、更新する。 ②行事、学習活動で交流した連絡先を、入力するフォルダを作り、活動後に入力する。
いじめへの対応	児童の一人ひとりの気持ちによりそいながら、学校全体で共通理解を図りながら児童と理解をし、いじめの未然防止と、対応に努める。	①児童指導専任と担任が連絡を密にとり、子どもの実態を学級のみでなく、学年で把握し、問題があれば早期に学年、専任で対応する。②児童のすることについて、学校全体で共通理解を図り、学校全体で児童方針を共有する。③保護者との連絡を必要に応じていつでもとれるようにする。
人材育成・組織運営	個々の資質・能力の向上を図るとともに、教職員が連携しながらよりよい教育を行う意欲をもてる組織づくりを目指す。	①各事業、および業務全般において実務推進の主体となるミドルリーダーをサポートするという認識のもとに、職員が協働していくという意識の定着を図る。 ②学校、ブロック、学年のいずれの単位、あるいは個人での取組により効率化が図れるかを適切に選択し、業務に臨む。